

夏の企画展

「みくにの華」から
「日傷月刊」まで
～ 傷痍軍人会の紆余曲折～

日本傷痍軍人会の
六十年を振り返る。

「みくにの華」「日傷月刊」は、傷痍軍人のための広報紙として、戦中・戦後に発行されました。本展では、「みくにの華」「日傷月刊」を通し、先の大戦以降、第二、第三の戦傷病者を生み出すに平和な日々を送ることができた中で、の日本傷痍軍人会の六十年間を振り返ります。



街頭募金をする者も現れた
戦傷病者不遇の時代



「世人の儀表」となるような活動を



平成30年 **7月18日(水)** — **9月9日(日)**
 ●会場 しょうけい館1階 ●休館日 毎週月曜日(祝日は開館・翌日休館)
 ●開館時間 午前10時〜午後5時30分(入館は午後5時まで)

しょうけい館
戦傷病者史料館
 Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.
 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13ツカキスクエア 九段下
 TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826
www.shokeikan.go.jp



入場無料



「みくにの華」から 「日傷月刊」まで ～ 傷痍軍人会の紆余曲折～



「みくにの華」は昭和11年(昭和13年財団化)に結成された大日本傷痍軍人会の広報紙(昭和12年～)として発行され、軍人援護の中心的な役割を果たしてきました。表紙に格言「貧は人を賢くし、苦は人を強くす(勝海舟)」と記され、誇りを持って社会に貢献するよう戒めています。日中戦争以降、戦火が拡大するとともに戦傷病者が増加するにつれて、「傷痍軍人になったら」をシリーズ化して、退院(除隊)後の生活指導等、戦傷病者の救済に尽力していますが、印刷物としては昭和19年頃までしか確認できません。

戦後、占領下では陸軍・海軍・軍事保護院の解散と同時に、それまでの援助が中止され、街頭募金をする者も現れるなど戦傷病者の不遇な時代を迎えます。占領政策が終了した以降、新たな流れが出てきました。昭和27年(1952)11月、日本傷痍軍人会(以下、日傷)の発足です。

「日傷月刊」は昭和27年(昭和30年財団化)に結成された日本傷痍軍人会の広報紙として発行されました。「傷痍軍人は身体の障害を克服し精神を練磨し以て世人の儀表(手本)たること」を要綱の第一に掲げています。その中には、社会貢献を行ない「世人の儀表」となるような活動を心がけていました。

戦中・戦後の違いはありますが、「みくにの華」「日傷月刊」に共通するのは、戦傷病者としての団結でした。二度の傷痍軍人会を対比することにより、先の大戦以降、第二、第三の戦傷病者を生まずに平和な日々を送ることができた中での日傷の65年間を振り返ります。



東京駅ガード下にあった
日本傷痍軍人会事務局



日本傷痍軍人会旗

関連イベント

●証言映像上映

しょうけい館が収録した証言映像を上映します。

- ・「戦傷病者のあゆみと傷痍軍人会」
- ・「最後まで傷痍軍人として」
- ・「人間の尊厳の回復につくした生涯」
- ・「銃撃を受けた米軍に救われて」
- ・「みんなのため、ひとのため…」
- ・「人生を変えた職業訓練」

時間:10:00～17:00

場所:1階証言映像シアター

●フロアレクチャー

内容:学芸員が企画展の展示解説をします。

日時:7月28日(土)、8月18日(土)、
8月25日(土) 14:00～14:30

場所:しょうけい館1階

当日参加自由・無料



●地下鉄をご利用の場合

「九段下」駅6番出口から徒歩1分(東西線、半蔵門線、都営新宿線)

●都営バスをご利用の場合

「九段下」停留所から徒歩1分(高71系統(九段下～高田馬場駅))

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。

